

本屋に ない本



土木と文明

土木学会創立100周年記念式典特別展示

土木学会 土木図書館委員会

2015.9 75p 26cm

<請求記号 DL825-L34>

道路、鉄道、橋梁、河川、ダム、上下水道：私たちの生活は、様々なインフラストラクチャー（インフラ）によって支えられている。こうしたインフラの整備を可能にしたのは、土木技術の発展に他ならない。土木の歴史は、単なる建造物の歴史にとどまらず、国土の秩序形成や暮らしの豊かさに結びついており、文明構築の歩みそのものである、というスタンスのもと、様々な視点から土木と文明の歴史を紹介したのが『土木と文明』である。

本書は、土木やインフラという一見「かたい」テーマを扱っているが、土木学会創立100周年記念式典の特別展示がもとになっているため、写真や図表を多用することにより、読みやす

い構成となっている。

まず、「第1章 築かれた大地」で国土利用の変遷を概観し、「第2章 国土経営の手法」において、都市機能や交通ネットワーク等の整備を利用した、各時代の統治のあり方を考察している。「第3章 自然の脅威への対応」では、自然災害大国である日本において、どのような治水・防災対策が講じられてきたのかを紹介し、「第4章 都市の再生」では、災害や戦災を乗り越えて、新たな都市が築かれてきた様子を伝えている。「第5章 都市デザイン の多様性」「第6章 橋梁デザイン の多様性」では、様々な都市・橋梁のデザインの類型と、その背後にある思想を紐解いている。

本書の特徴は、土木やインフラにまつわる様々な事実・数値が、視覚的に表現されている点である。例えば、日本では、国土の4分の1を占めるに過ぎない平野部に、人口の約80%が集中している。しかし、初めから全ての平野部が居住に適していた訳ではなく、人の手によって拓かれたものであることが、地図の上で明らかにされている（第1章）。視覚にうったえる紙面構成により、土木分野の専門知識がなくても、本書の内容を楽しむことができるだろう。

巻末には、土木が果たしてきた役割とその担い手について、「ひろげる」「ささえる」「まもる」「はぐくむ」という四つの視座から整理したビジュアル年

表が収録されており、こちらも興味深い。例えば、かつて徒歩で13日を要した東京・大阪間は、今では新幹線（のぞみ）を使って2時間25分で快適に移動することができるし、将来リニア中央新幹線が開通すれば、約1時間ほどに短縮されるというから驚きである。先人の知恵と技術によって高度に整備された現代のインフラは、老朽化への対応が大きな課題となっている。歴史を知ること、私たちの暮らしを支えている土木とインフラの重要性を再認識し、いかに未来へと引き継いでいくか、考えさせてくれる一冊である。

（千田和明）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。

このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。